



News Letter

VOL.



2016

看護学教育研究共同利用拠点
千葉大学大学院看護学研究科附属
看護実践研究指導センター

Center for Education and Research in Nursing Practice,
Graduate School of Nursing, Chiba University

平成 28 年度看護実践研究指導センターの活動



当センターは、全国の看護系大学の教育の質向上のための看護学教育研究共同利用拠点(平成22年度認定、平成27年度再認定)として、研究・研修・情報集約と発信および看護系大学の連携の推進を行っています。各事業の企画・実施に際しては、全国の看護系大学への貢献

と看護学の発展に向けて「研究、教育および実践をつなぐ」こと、看護系大学間、保健医療福祉機関間相互の支援、および看護系大学と関係機関との連携を大切にしています。

また、センター教員が看護システム管理学専攻教員との兼任教員として、現職の看護管理者の力量開発に従事し、博士後期課程における研究教育者養成、また学部教育の一部を担っているという特徴を活かしています。

主な研究は、看護学教育研究共同利用拠点としての機能向上に向けて、平成28年度から「看護学教育の継続的質改善(Continuous Quality Improvement:CQI)モデルの開発と活用推進」に取り組み、各看護系大学における教育の質保証のための手がかりとなるように、CQIモデルを開発しています(平成31年度まで)。また、文部科学省「大学における医療人養成の在り方に関する調査研究委託事業」として「学士課程における看護実践能力と卒業時到達目標の達成状況の検証・評価方法の開発」(平成27-29年度)に取り組み、評価モデルを開発し、試用・評価をもとに提言致します。

あわせて、「研究、教育および実践をつなぐ」ことにより、看護人材と看護の質を高めるように、FD(Faculty Development)、SD(Staff Development)および新規事業のシーズ探索に関して、全国の看護系大学教員あるいは実践者との共同研究を行っています。これらの共同研究は、参画者を毎年公募しながら、FDあるいはSDプログラム開発の考え方と方法、および実用性の検証まで、継続的に実施しています。平成28年度は2つのプロジェクト研

究が終了し、課題解決型共同研究2件をもとに、平成29年度に新たな研修事業を開始する計画です。

研修は、FDとして各看護系大学における教育の質保証に関わる管理的立場の看護系教員を対象として、毎年、看護学教育ワークショップを行い、教員の組織変革に関する力量開発とともに、各看護系大学相互の支援を推進しています。本年度は、文部科学省、日本看護系大学協議会(JANPU)と連携して、平成27年度文科省委託事業調査結果を報告し、各看護系大学における取組みについて、相互支援の場をつくりました。

また、看護系大学の臨地実習施設における実習指導者を対象として、看護学教育指導者研修を行い、教育と実践の連携を推進しています。看護系大学が地域の保健医療機関と連携して教育の質を向上させるように、病院に限らず、訪問看護ステーション、行政機関等の広範な実習指導者を対象に行っています。

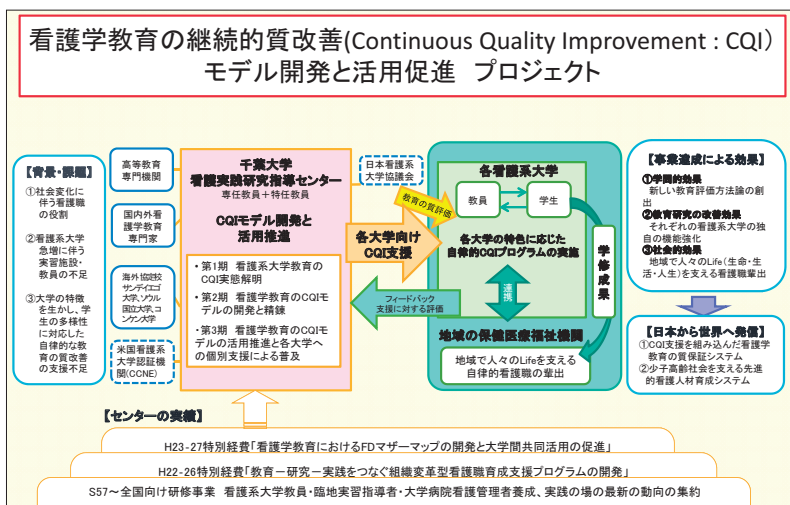
一方、SDとして、急性期病院の看護の効果・効率の改善に向けて、看護管理者研修を行い、大学病院の教育機能をはじめとする機能強化に向けて、副看護部長研修を行っています。

FD、SDでは、先進的なプログラム開発と実用を大切にしています。その一環として、乳がん看護への大きな社会的ニーズに応え、認定看護師教育課程(乳がん看護)のプログラムの開発を目的として、平成17年から実施してきました。平成25年、26年に他機関でも開設され、本教育課程のプログラム開発の目的を達成したと判断し、本年度に終了致します。

こうした研究・研修を通して、看護学教育に関する国内外の動向を共有し、各大学の教育の質改善の方向性の手がかりを得られるように、ホームページ、データベース等で情報発信しています。本年度は英文ホームページを充実させ、また、より効率的に看護系大学と情報交換できるように、拠点メーリングリストを作成しました。ぜひご登録の上、当センターをご活用下さい。皆様のご意見をお待ちしております。<http://www.n.chiba-u.jp/center/>

看護学教育の継続的質改善 (Continuous Quality Improvement : CQI) モデル開発と活用促進事業

当センターは、文部科学大臣から認定されている看護学教育研究共同利用拠点として、平成28年度より、「看護学教育の継続的質改善(Continuous Quality Improvement : 以下CQI)モデル開発と活用促進事業」に取り組んでいます(図)。本事業では、文部科学省の受託研究や看護学教育ワークショップなどを通して、各大学が、様々な機会とリソースを活用し、自大学におけるCQIを推進するための取り組みを実施している状況を共有してきました。これらを踏まえて、2月には、「大学における看護学教育の継続的質改善(CQI)活動と背景要因に関する研究」を行いました。また、各大学向け個別CQI支援として、FD個別コンサルテーション5大学、FDマザーマップ活用支援4大学の参加がありました。教員FD用のコンテンツ開発も行っています。平成29年度も、ご参加とご協力をお願いいたします。



大学における医療人養成の在り方に関する調査研究事業

文部科学省委託事業(平成27～29年度)「医療人養成の在り方に関する調査研究」の一環として、平成28年度は、全国の看護系大学における「到達目標2011」の活用の実態と背景要因の解明のため、量的調査と質的調査を行いました。この調査における「到達目標2011」とは、学士課程教育においてコアとなる看護実践能力と卒業時到達目標(大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会、2011)をさします。看護学教育ワークショップで概要を報告した量的調査は、看護系大学の管理責任者1名、1～4名の科目責任者を対象とし、郵送式自記式質問紙調査で実施しました。回答者の7割以上が「到達目標2011」を活用し、カリキュラム検討や内容の網羅性の確認に活用しており、学生の評価への活用は低い傾向でした。「到達目標2011」の周知度は活用に影響していました。自由記述を合わせて「到達目標2011」は、基本的な考え方には支持を得ていますが、卒業時到達目標評価への活用しやすさの向上、個々の大学の人材育成像の明確化への活用促進、現代社会の変化に即した教育内容の再検討等の課題が示唆されました。報告書は、各看護系大学に発送し、ホームページに掲載します。平成29年度は、質的調査を継続し、総合的な報告を行います。

看護学教育ワークショップ



平成28年度看護学教育ワークショップは、文部科学省と日本看護系大学協議会(JANPU)の後援を得て、10月27日～28日、千葉大学けやき会館にて開催されました。テーマは、「卒業時到達目標の評価をどう行い、どう活かすか～大学改革時代における看護学教育の継続的質改善への挑戦～」とし、ワーク“知る”、ワーク“創る”、ワーク“推進する”の3部構成としました。ワーク“知る”の部には、115大学3機関から164名の教員が参集しました。まず、文部科学省の看護教育専門官斉藤しのぶ氏より、「看護系大学を取り巻く大学改革の動向」の講演がありました。続いて、JANPU代表理事上泉和子氏と当センター黒田久美子准教授から二つの調査研究、岐阜県立看護大学教授両羽美穂子氏より卒業時到達目標評価の取り組み事例の紹介がありました。

全日程参加者は、1大学1名で選考し、70名でした。ワーク“創る”



では、ワーク“知る”を受け、「『自大学の卒業時到達目標』をどう評価し、どう活かすか」について、【組織運営】【臨地実習】【学生支援】【地域連携】の4テーマ、10グループで、各大学の取り組みを紹介し、課題を確認し、自大学に持ち帰るアクションプランを検討しました。そして、ワーク“推進する”で、アクションプランを実現するためのアイデアを共有しました。大学改革時代にあって、自大学の教育の質改善のアクションの一步を踏み出すのは、参加した教員一人ひとりであるという役割認識や、そのための看護系大学のネットワークが、交流の中で生み出されていく2日間となりました。ワーク“知る”の講演資料と合わせ、ワークショップ報告書を当センターホームページに公開していますので、ご参照ください。

認定看護師教育課程（乳がん看護）プロジェクトのまとめ

本課程は、平成17年、千葉大学看護学部附属看護実践研究指導センターに、本邦初にして唯一の乳がん看護認定看護師の教育機関として設置されました。平成28年度までの12年間で300名を超える修了生を輩出しています。

本課程の開設の目的は、教育プログラムの開発と乳がん看護認定看護師の役割の開発・推進です。平成15年の分野特定時には、日本がん看護学会が申請母体となって教育プログラムが提案され、日本看護協会が認定領域として基準カリキュラムが示されました。この基準プログラムをベースに、平成17年にブリストル・マイヤーズスクイブ財団の助成を受け、教育プログラムを開発しました。日本看護協会では、平成21年と平成26年に基準カリキュラムの改正を行っていますが、そのワーキンググループには、本課程の教員、非常勤講師、修了生が参画し、臨床のニーズに即した教育が含まれるように提言しました。さらに、乳がん看護認定看護師の教育機関は、平成25年に静岡県立静岡がんセンター（定員20名）、平成26年に鳥取大学医学部附属病院（定員10名）において開講しました。静岡県立がんセンターの開講時の教員は、本課程での教育経験を有するがん看護専門看護師と、本課程修了の認定看護師であり、本課程で開発した教育プログラムを参考にプログラムが展開されました。また、これらの教育機関でのプログラム実施には、本課程の教員や修了生が非常勤講師として、あるいは、修了生が実習指導者として協力しています。

平成18年8月に、乳がん看護認定看護師20名が誕生しました。本課程では、平成20年度に東京と大阪で、「乳がん医療が変わる 患者とともに歩む乳がん看護認定看護師」と題して市民公開講座を行い、乳がん看護認定看護師の役割の普及に取り組みしました。平成24年度の診療報酬改定では、がん患者カウンセリング料が掲載されるようになり、乳がん患者・家族を支える認定看護師の役割への期待が高まりました。乳がん看護認定看護師数は、平成29年2月現在、3つの教育機関の修了者を合わせて、316名となっています。

臨床実践看護師の自己研鑽には、学会・研究会への参加と協力が不可欠です。本課程修了生は、日本がん看護学会の教育・研究活動委員として、日本乳がん看護研究会の世話人として、あるいは、日本乳癌学会の評議員として学会・研究会活動に参画し、乳がん看護の普及・発展と認定看護師の実践力の向上を図る活動を行っています。修了生のフォローアップは、平成21年度までは、本課程でブラッシュアップセミナーを実施していました。平成22年度以降は、日本乳がん看護研究会において、CNスキルアップセミナーが行われています。

乳がん看護認定看護師の教育プログラムの今後の課題は、地域包括ケアにおいての在宅ケアに対応しうるプログラムの充実と、EBNが注目される昨今、エビデンスのある看護実践を構築するための認定看護師教育課程における調査・研究の教育プログラムの充実が必要と考えます。

本課程は、平成28年度を最終年度として閉講することとなりました。12年間、関係各位のご厚情とご協力を賜りましたこと深く感謝申し上げます。

●履修者数

2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
21	30	30	29	27	27	25	26	22	23	20	21

（平成29年3月16日現在）



▲平成17年度 修了式



▲平成20年度 市民公開講座

●平成28年度国公立副看護部長研修



国公立大学病院副看護部長研修は、日本の医療の現状を踏まえて、大学病院の上級看護管理者として自施設の組織変革に向けたビジョンを明確にし、その実現に向けた計画を立案・実施・評価することを通して、上級看護管理者として必要な実践的能力を高め、大学病院の看護の充実を図ることを目的として、平成18年度から実施しています。平成28年度は、22名の受講生を全国の国公立大学病院から迎え、1年を3期に分けた分散型の研修を実施しました。各研修の間の期間は、自施設で取り組む各自の実践計画に沿った組織変革プロジェクトを推進し、センター教員からの継続した支援および、研修生相互の交流から、実践力が高められるようシステム化されています。研修Ⅰは、大学病院の高度実践看護管理者として必要となる最新の学際的知識を学び、研修Ⅱは、課題解決に向けた演習およびプレゼンテーションスキルの演習などから小グループのダイナミクスを活かした学習、研修Ⅲは実践報告会を実施しました。報告書は、研修生の同意を得てセンターのデータベースへ登録されますので、ご活用ください。(つなぐデータベース <http://www.np-portal.com/report/years/>)

●平成28年度看護管理者研修(ベーシックコース)



近年の医療制度改革では、住み慣れた地域で生活するための医療への転換を目指して、病床機能分化が進められています。特に、急性期病院では、限られた在院日数で効果的に医療を提供し、速やかに地域での生活に戻れるよう支援する役割が求められています。看護管理者研修は、看護師長等、現場の看護に責任を持つ職位にある、国公立大学病院をはじめとする急性期病院の看護管理者が、医療提供体制の変化に対応した複雑かつ重要な課題を組織的に解決する能力を開発することを通して、看護本来の役割発揮を支援することを目指して、毎年開催しています。

今年度は、平成28年8月29日(月)～8月31日(水)の3日間、千葉大学看護学部を会場に開催しました。全国から103名の看護師長相当の看護管理者が集まり、熱心な学びと活発なネットワークの形成ができました。ご後援をいただいた文部科学省から大学病院支援室下左近専門官、厚生労働省看護課から猿渡課長補佐、日本看護協会から坂本会長、退院支援の専門家宇都宮宏子氏など総勢9名の多彩な講師陣で構成された講義では、少子高齢社会における人々の健康と生活の充実のために、いかに現場の看護管理者の役割発揮が重要であるかを再認識することができました。なお、課題解決型プロジェクト型共同研究として2年継続してきた「看護管理者研修(アドバンスコース)」は、平成29年度は、発展的なプログラムとして実施する予定です。

●平成28年度看護学教育指導者研修(ベーシックコース)



地域包括ケアシステムの構築が進む中、次世代の看護職を育成する上で、地域のさまざまな保健医療施設と看護系大学の連携の重要性が益々高まっています。看護学教育指導者研修は、看護学生の看護実践を直接指導する臨地実習施設所属の看護職が、社会の変化に即した看護学教育を行う上で必要な視点を養い、臨地実習施設と看護系大学の更なる連携・協働により、社会が求める次世代看護職の育成に資することを目的として、毎年開催しています。

今年度は、全国から52名の看護系大学の臨地実習施設所属の看護職の皆様を研修生として迎え、平成28年8月24日(水)～8月26日(金)の3日間、千葉大学看護学部を会場に開催しました。初日は看護高等教育行政の動向、看護学教育の基礎、看護における成人教育のあり方を学び、2日目からはグループワークを行い、上手いかなった教育指導実践の事例をいかに教育のチャンスとして教材にしていけるかをグループで検討、その検討結果を使ってロールプレイングし学びを深めました。また、今年度は、初めての試みとして、看護系大学教員6名にもご参加いただきました。今後は、この試みの成果と、これまで課題解決型プロジェクト共同研究として2年間継続してきた「看護学指導者研修(アドバンスコース)」の内容を統合し、臨地実習施設と看護系大学の更なる連携・協働に向けた、新たな看護系大学教員向け研修を実施する予定です。

千葉大学大学院看護学研究科附属看護実践研究指導センター「メーリングリスト」 kangogaku-kyoten@ML.chiba-u.jp 登録のご案内

センターでは、拠点としての機能強化を図り、看護系大学等との連携・協働するための情報発信能力を高めることを目的として、これまでの郵送とホームページからの情報発信に加え、メーリングリストを作成しています。

看護系大学のみならず、ご登録をお願いします。ご登録いただいたメールアドレスは、当センターからの研修事業の案内、調査協力依頼などの情報発信にのみ利用し、それ以外での使用はいたしません。登録申込書は、センターホームページからダウンロードできます。ご不明な点は、メールでお問い合わせください。申込書受付用アドレス:kango-CQI@chiba-u.jp

看護学教育研究共同利用拠点

発行

千葉大学大学院看護学研究科附属看護実践研究指導センター

〒260-8672 千葉県千葉市中央区亥鼻 1-8-1 U R L : <http://www.n.chiba-u.jp/center/>

TEL : 043-226-2377・2378(看護学部事務部) E-mail : nursing-practice@office.chiba-u.jp